

## 令和6年度 第1回さいたま市博物館協議会 会議録

開催日時 令和6年8月20日(火)午後2時から午後4時  
開催場所 さいたま市立博物館 講座室  
出席者名 委員 : 江里口友子委員長、新美和子副委員長、神田真仁委員、小宮るり子委員、杉山正司委員、千葉諭美委員、橋本正晴委員、初音みね子委員、坂野千登勢委員、松岡聖子委員、亙理隆委員、伊藤さおり委員、倉林弥生委員  
(欠席: 広田由子委員、宮瀧交二委員)  
事務局 : 博物館長、博物館長補佐兼事業係長、博物館長補佐兼管理係長、同事業係主査、同事業係主事、浦和博物館主査、浦和くらしの博物館民家園主査、旧坂東家住宅見沼くらしっく館主査、与野郷土資料館主査

傍聴人 なし

さいたま市博物館条例第14条に基づき、令和6年度第1回さいたま市博物館協議会を開催しました。

会議名 令和6年度第1回さいたま市博物館協議会

博物館館長補佐兼管理係長の司会により開会し、任命書交付式、生涯学習部長のあいさつに続き、さいたま市博物館協議会規則に基づき、委員長が議長になり議事に移りました。

議 事

議 長 会議を始めるにあたって、昨年度の協議会では協議会内で出た意見を陳述書として提出したほうが良いのではないかという話も出たので、協議会の位置づけについて確認をしたところ、設置目的には「博物館の運営に対して館長の諮問に応じると共に博物館の事業運営について専門的な立場から意見を述べる」場だとありました。協議会で協議して出た意見をそのまま反映してもらうとか通してもらうとか、そういう会議とはまた違う場だということです。委員の闊達な意見も頂戴したいですが、意見に対して市から必ず回答があるとか、意見が通るとか、そういうことではないですので、ご理解いただければと思います。

議 長 これより議事に入ります。今回の協議会は前年度の事業報告となっています。既に委員の方は目を通していると思いますので資料の1ページから

9 ページまでの事業報告について意見や質問がありましたらお願いします。  
す。杉山委員お願いします。

杉山委員 質問1点と意見があります。昨年度の事業計画と照らし合わせて見ましたが、子どもわくわく体験講座は、土日開催で非常に良いと思いましたが、昨年度の計画の4回から3回に減ったのはなぜでしょうか。ただ、夏休み子ども博物館関連講座が予定の27回から実施28回に増やしたのは利用者のためには非常に良いことなので継続してほしいと思います。特別展関連講座も実施予定2回から3回事業が入っていて利用者サービスに非常に繋がっていると思いましたが。藍染の回数が1回減ったのはなぜか、軽微な質問で恐縮ですがお願いします。

議長 事務局お願いします。

事務局 昨年度の藍染体験講座はまず子どもわくわく体験講座で春と秋と1回ずつ、一般向けの2週連続の講座も春と秋と1回ずつで、子ども向け2回、大人向け2回の合計4回を行いました。その他夏休み子ども博物館関連講座でも実施しましたので、延べ6回開催しました。

杉山委員 ありがとうございます。数を減らすよりは増やすほうが利用者のためになるので、フレキシブルに対応してってください。

議長 他にご意見ある方お願いします。

千葉委員 1ページの講座の中で「秋の自然観察バッタをつろう」は中止、藍染め教室が定員30人のところ参加者が23人とあります。細かいことなのですが、「秋の自然観察 バッタをつろう」はなぜ中止になったのでしょうか。また藍染め教室も、日曜日開催で満員になるのではないかと考えていましたが、定員割れとなった理由を知りたいです。似た話にはなりますが、4ページの民家園の埼玉県民の日講座「昔の遊びを体験しよう」も定員なしの講座ですが参加者数0人とあります。こちらも気になりました。6ページのくらしっく館の「慶應大学薬草園で学ぶ草木」も台風で中止と書いてあり、「見沼の自然散策」の参加者8人、「文化財散歩」の参加者5人と少々参加人数が少ないなと感じたところです。ただ民家園やくらしっく館はオープンエアーな施設なため、天候に左右されやすいところがあるのかなと思います。全体の来館者数も減っていた記憶もあります。昨今の台風や暑さを考えると致し方ないと思います。ですので、予定人数に達していなくてもペナルティにはならないと思います。そのあたりも含めて教えてください。

事務局 まず市立博物館の講座から説明します。中止になった秋の自然観察は当日強い雨が降っていたため中止としました。また講師を招いての講座でしたので日程の変更の都合もつかず、延期ではなく、中止としました。「藍染め教室」は募集の時点では定員を超えていましたが当日キャンセルが多く

出て参加者が23人となりました。また、「バッタをつろう」という屋外の講座についてです。仕掛けを作って大宮第二公園の水辺に行ってバッタを捕まえるという講座です。公園内は足元がぬかるむ箇所も多いので、雨の日の開催は難しい講座となっています。藍染め教室は病気を理由にキャンセルされる方が多かったと記憶しています。

事務局 民家園の埼玉県民の日講座が定員なしで参加者0人でしたが、この日も天候が悪い日でした。事前に参加申し込みをしないと、行かなくてもいいかな、という方が多いと思います。いつ来てもいいようにボランティアを含めてスタンバイをしていましたが残念ながらどなたも来なかったという状況です。

事務局 見沼くらしっく館の「見沼の自然観察」や「身近にみられる文化財散歩」は市報やインターネット等で周知しましたが集まりづらい状況でした。

議長 続けて質問をしますが、昨今の晴天なのにならと天気が変わって土砂降りになったりしています。そんな劇的な天候の状況の中でそれぞれ野外博物館の状況はいかがでしょうか。

事務局 民家園は非常に利用者が減っています。歩いている方がいると「大丈夫ですか、ロビーはエアコンが効いていますのでぜひご利用ください」とお声がけをしています。来館者の中にはロビーに置いている昔のおもちゃで遊んでいる姿が多いです。特にデイサービスで散歩に来ていたグループが、7月・8月はほとんどいませんでした。かなり影響が出ています。また園内の樹木や草花の移り変わりもおかしいなと思っています。例年だと古代蓮が8月のお盆辺りまで咲いていましたが、今年は7月頭でほぼ咲き終わってしまいました。ほんの少し7月末まで残った花もいましたが、園内の様子が変わってきています。草の生え方もだいぶ違うため、いつ除草をしようかということが難しくなっています。

事務局 旧坂東家住宅見沼くらしっく館も高齢者のデイサービスが団体で来て見学している様子がよく見られる光景ですが、この暑さで8月に入ってから来ていないという状況です。ただ子どもたちの放課後デイサービスは今は夏休み期間中のため、少ないですが、定期的に来館しています。ただ暑さもありますし、子どもたちは遊びに夢中になって炎天下でずっと遊んでいる様子も見受けられるので定期的に声がけをして見守っています。

議長 来館者が無理をして救急搬送等も大変です。江戸博の分館のたてもの園でも、お声がけをしても、大丈夫と言って、結局倒れて救急車というケースもありますので、来館してもらうのは嬉しいが、というジレンマがありますよね。昨年度は台風の影響があったようですがその時の状況や対応はいかがだったでしょうか。

事務局 民家園は昨年の6月の台風では園内が冠水したので、その後10日間臨時休館をして復旧作業をしました。その際に土壁が崩れたりした部分については11月末から修繕を開始して翌年の2月までかかりました。土壁は塗って乾かして塗って乾かしての繰り返しの作業で時間がかかりましたが2月中に全て復旧しました。台風シーズンにおいては雨降りそうな時は部内からも応援を貰って移動できる展示品を管理等に移動させたり土嚢を300個ほど作って準備したりしましたが、幸いなことに準備のみで使うことはありませんでした。先日もその土嚢を300個を積み上げましたが被害は出ていません。

事務局 旧坂東家住宅見沼くらしっく館でも昨年度の台風等において施設に対しての影響はありませんでした。

議長 他に意見ある方いらっしゃいますか。

坂野委員 入館者の増減ということで、マイナスのお話がありましたが入館者数が増えている館もありますよね。岩槻郷土資料館や与野郷土資料館は要因が分かるようでしたら教えてください。

議長 事務局お願いします。

事務局 与野郷土資料館の入館者数が増えた要因についてはコロナ禍が収束したこと、またデイサービス宛てにぜひ与野郷土資料館を活用してくださいという案内を送ったためその効果が出ていると思います。また屋内の施設で冷暖房完備ですので季節問わず来館者がいたことも要因の1つだと考えています。また当館は複合施設のため子育て支援の方々とその保護者が一緒に来てくれるようになり、それに対してお土産として折り紙を渡すようなアプローチをした結果もあるかと思っています。放課後児童クラブも月1回程度来館するようになったこともあり、入館者増になっています。その他行事等についてもチラシの配布を増やしたり、ホームページも必ず作ったり、様々な工夫の結果ではないかと思っています。岩槻郷土資料館もコロナ禍の収束が要因として挙げられますが、まだコロナ前には戻っていないと思っています。ここで増えてきているのは岩槻区内で開催される様々なイベントが復活してきています。特に岩槻藩遷喬館がイベントの会場と近いのでそれに付随して来館者が増えているようです。

議長 岩槻郷土資料館は郷土資料の中でも土人形などの人形の展示の期間中の来館者数が多いように思うのですが、それはその時のお祭りによるものなのでしょうか。

事務局 人形に関わる祭りをしていた中での展示でしたので、来館者が増えたと思います。

議長 他に意見ある方はいらっしゃいますか。

神田委員　　今までのお話と内容が被る部分がありますが来館者数についてです。コロナ禍の収束で入館者数としては増えたと思います。他にも効果的だったと思う施策はありますか。何が結果に結びついているかが分かっていたら教えてください。加えて、博物館として来館者数が1番大事だと思った方が良いのでしょうか。数がたくさん来ただけで良ければ集客に注力すればいいと思いますし、満足度も高くなければダメだということであれば、そういった話が全然表に出てきていないので満足度を高めつつ、来館者数を増やすことを目指すとすると、実現するための仕組みを考えなければならないと思います。何か考えや取り組みがあれば教えてください。また、各博物館の展示はどのような属性の人をメインターゲットに据えているのかも併せて知りたいです。子ども向けという話もあって分かった部分もありますが、例えば他の年代層はどこをターゲットにしているのか、各博物館でデイサービスの話にもあったように高齢者層が2番目に大事だとすると働く世代は下になるのか、など、どこを大事にしていて、どこに注力して人を呼びたいと思っているのかその年代を教えてください。日本人以外にもターゲットに含まれているのか日本語を介さない方にはどのように考えているのか、移民の方も増えてきているので異文化理解に繋がるためのアクションや考えがあれば教えてください。来館者数の獲得の仕方も新規で獲得したいのか、リピーターも含めたいのかによってアクションの取り方も変わってくると思います。10 ページで少し先の話になってしまいますが、広報にホームページ・ツイッター等で掲載とあります。今名称がツイッターではないので変更したほうが良いと思いますし、ホームページ上でもツイッターのままなので併せて変更していただければと思います。

議　　長　　ツイッターの件は資料2に掲載されているので先に質問のあった4点をお答えください。

事 務 局　　市立博物館の事業も様々ありますが、先ほど特別展の人数が増えたお話をしましたので、それを中心に話をします。入館者数を増やせた要因として考えられるのは、あとの質問の新規かリピーターかという棲み分けの話と年齢層の話にも繋がりますが、特別展は新規の方に興味を持ってもらい来館するきっかけになれば、という想定でした。逆に常設展示は何度か来てもらうこと、また、年代層は市内で歴史を学んでいる小中学生にも来てもらえれば、色々な発見ができるような内容を目指しています。特別展はアンケートで年代やどこから来たのか、満足度を設問として設けています。それまでの特別展の傾向として年齢層は60代以上か学生に2分化されていて、社会人の方は少なかったです。前回の展示では、埴輪や土偶などの考古学の造形を含めたものを好んでいる方が SNS 上でも多いですので、そういう方たち

に来てもらうにはどうしたら良いかを考えながら企画や展示設計、ポスターのデザインを決めました。その効果があったと実感したのはアンケートの結果で 40 代から 50 代の来館者が比較的多かったということです。展示の満足度についても 5 段階評価を設けていますが、上位 2 つで 95 パーセントを占めていました。現在企画中の天文の展示や今回の資料に掲載している次回の企画展も考え方としては似ていて、今まで博物館に足を運んでいなかった層にアピールしようと進めています。また日本語を介さない方へ、ということですが、来館者の中に目立つようになってきたなと思います。ただ具体的にどうアピールするかというのはまだ検討中です。どういうやり方をしていくかについては、なるべくアンテナを広げ、観光や国際交流の部署とも連携して進めていければいいなと思っています。例年子どもを対象とした夏休み子ども博物館や、さいたま市のうつり変わり人とびとのくらし展を開催していて、見学者として子どもを想定して解説パネルやキャプションを製作していますが、必ず保護者が同伴していて 30 代から 40 代前半の勤労世帯の方についても一緒に展示を見ているので新規・リピーター問わず比較的足を運んでいただいているのではないかと思います。子ども向けの中でも今年度新しい試みとして、未就学児とその家族にも来てもらえるようなイベントについて保育園の園長会で周知しました。

初音委員 市立博物館で折り紙教室の講師をしています。通常折り紙の講座は大人のみの講座か、子ども向けの講座かのどちらかです。市立博物館では必ず親子で来て、親もしっかり折って楽しんでもらう講座です。私も楽しみながら講座をしています。親は夢中になって折りますが、子どもたちのほうが折れるのでコミュニケーションを取っています。家とはまた違った光景で、楽しい雰囲気の中講座をしています。

議長 ぜひ続けてください。亘理委員お願いします。

亘理委員 講座は非常に数多く開催されていて、参加率も高いですね。2 点質問があります。1 点目は神田委員からマーケティング的な考え方の話がありましたが有料の講座はいくつありますか。有料の基準が分かりにくいです。例えば 7 月 28 日に浦和博物館で行われる埼玉高速鉄道見学会は参加費が 1 人 300 円となっています。浦和くらしの博物館民家園の竹工芸講座「花かごを編む」は材料費がかかるはずなのに、参加費無料となっています。どのような基準を設けているのかお聞きしたいです。そして私の考えですが、金額は小さいですが受益者負担にしたほうが良いのではないかと思います。予算が限られている中で少しでも新しい試みができたり、講師を呼ぶことができたり、材料を充実したりできるのではないかと思います。また、無料より有料のほうが参加率は高いのではないかと思います。材料費がかかる

ものや外部講師を招く講座は、お金を徴収しても良いのではないかと思います。もう1つ知りたいのはリピート率です。参加者は同じような顔ぶれが多いのか、新規が多いのか、というところです。博物館の講座の存在を知るには博物館に来館したり、博物館のホームページを見たり、市報さいたまを見たりなどあると思います。ただ、市報さいたまは博物館ごとに掲載されているページがバラバラで非常に見にくいです。話は逸れてしまいましたが、もしいつも似た顔ぶれなのであれば、新しい人が入れるように学校の先生の協力を求めるなどやり方は様々あると思います。以上、有料・無料の基準とリピート率をお聞きします。

議長 事務局お願いします。

事務局 まず浦和博物館です。埼玉高速鉄道見学会ですが埼玉高速鉄道の紙の模型をセットにして300円で実施していただくという話にまとまりましたので、その金額設定となっています。我々が決めたわけではなく、埼玉高速鉄道と打ち合わせをした上で決定し、受益者負担としています。埼玉高速鉄道のほうも力を入れているようで、市内の子どもたちにぜひ参加してもらいたいということで300円には見合わない付録の量で、非常に好評です。また親子講座なので親子で参加費を徴収しています。リピート率ですが、うらはく工芸クラブを8回ほど実施した内、約3分の1はリピーターという印象です。リピーターの年齢層も、高齢者もいれば、子どもたちもいます。作る物が違えば、また次回も参加したいと申込をいただくことが多いです。先ほどの市報のお話ですが、ページが違っていたりして見にくいとは思いますが、博物館グループでまとまっていると、市民の方も選びやすいのかなとは思っています。

千葉委員 リピート率のお話があったので気になったこととお話させていただきます。旧坂東家住宅見沼くらしっく館のくらしっく寄席は非常に参加人数が多いですね。要因はどのようなものがありますか。また、リピーターが多いのではないかと思っているのですが、いかがでしょうか。このくらしっく寄席はプロの落語家を呼んでいるのですか。

事務局 くらしっく寄席は非常に好評を頂いている講座です。リピーターも多くて、次回は何月何日ですかと聞いて、次を楽しみにして帰る方もいます。参加者のお名前は頂いていないため、厳密なリピート率は出せませんが、体感としてはリピート率も高いのかなと思っています。寄席は、埼玉落語会に所属している方で、プロなのかどうかというところは分かりませんが、亭号をお持ちの方をお願いしています。

千葉委員 参加費は無料ですよ。

事務局 参加費は徴収していません。

- 千葉委員 リピーターはシニア世代が多いですか。
- 事務局 どちらかと言えば年齢層は高めですが、全員が全員高齢の方、というわけではありません。
- 議長 定期的を開催していると少しずつ口コミで広がっていった参加者が増えるのではないのでしょうか。
- 事務局 まさにその通りです。先ほどの有料・無料の基準の話ですが講座のために材料を購入して開催する講座は、実費相当分を参加費として徴収しています。無料の講座は、レジュメ1～2枚程度を印刷して、配布するような座学が多いです。材料費はかかっていないため、無料で扱っています。リピート率は座学の講座は新規のほうがだいぶ多いです。8割以上が新規の方だと思います。抽選になる講座が多いので新規が多い傾向があります。
- 松岡委員 ぐらしくく寄席は参加費は徴収していないとのことでしたが、謝礼は支払っていますか。
- 事務局 謝礼は支払っています。
- 神田委員 来館者について質問があります。各館で工夫をされているとは思いますが、その効果を見るためにも、Xのインプレッション数ホームページの閲覧数は集計していますか。
- 議長 事務局お願いします。
- 事務局 ホームページの閲覧数は日毎にも集計ができるため、必要に応じて集計し、広報の効果を見ています。Xのインプレッション数の統計を取る体制にはなっていないため、今後の課題としています。
- 神田委員 その集計した数値は、どこまで公にできるものですか。
- 事務局 現在、公にしているのは博物館ホームページ全体の閲覧数です。この数は市の重要施策の指標になっていて毎年報告の形で出しています。目標数値なので、閲覧数を伸ばしていかなければならないため、イベント毎のページだけでなく、生涯学習や学習に利用してもらって一定数のアクセス数を見込めるような過去の展示の紹介や、歴史的なトピックを取り上げた解説を増やしているところです。
- 神田委員 それらの工夫がゴールに結びつくような、コンバージョンを把握できる仕組みが必要だと思います。これをやったからこういう結果になったという因果関係が分からないと、数値を見て盛り上がっているから、同じように盛り上がっているねという話だけに留まってしまいます。参加者が何を見て申し込んだのか等の経路を明確にできないと、X等での活動が無駄になってしまう可能性があります。ですので、それらを集計できる仕組みを設けていかないといけないと思うのですが、既にあるのでしょうか。
- 事務局 現時点では、来館者アンケートには展示を知ったきっかけを聞いていま

す。市報やホームページ、SNS などは個別に選択できるようにしています。現時点で把握している数としてはそういった形です。ただ普段の常設展示室の入館者や、特別展示期間外の来館者にはアンケートは実施していないため完全な把握ではないというのがあります。

議 長 杉山委員お願いします。

杉山委員 神田委員の話に続けてになりますが、博物館評価というのはやっていないのでしょうか。そういったものを実施して公表していれば解決できるので、もし実施していないのであれば今後導入を検討したほうが良いと思いますがいかがでしょうか。

事務局 外部評価は何も導入していません。導入済みの市町村を参考にして検討したいと思います。教育委員会内部では点検評価委員会というのがあり、内部の評価はあります。

杉山委員 今後、登録博物館を目指すことを考えると、最低限博物館評価・外部評価は導入するべきだと思います。

議 長 検討をお願いします。

松岡委員 夏休み子ども博物館の催し案内は、市立博物館には岩槻郷土資料館と与野郷土資料館が含まれているのに、浦和博物館は単独になっています。1枚にまとめたものがあつたほうが良いのではないかと思います。また、申込方法がインターネットと電話とあつて、統一はされないのですか。

事務局 与野郷土資料館には講座室はありませんので、少ない人数の募集をしています。そのため電話で受け付けることができます。対して他館は講座室があつて、大勢の申込者が見込まれるため、ホームページで申し込みをして抽選する形を取っています。

事務局 市立博物館では、まず申込方法について、以前は往復ハガキでの申込を実施していました。講座数も増やしたことに連動して参加者も増えた結果、往復ハガキが1000通を超えて事務が煩雑になっていました。そこで生涯学習部が作成したシステムで申し込んでもらうというのを、この数年で形作りました。申込から抽選をして当落結果を発送するまでの所要期間が大幅に短縮されました。浦和博物館でも今年から同じ方法を採用していますので、市立博物館と浦和博物館がシステムを使うのは申込の数に合わせたものと理解していただければと思います。チラシが分かれているのは、組織運営に関わってくる話にはなるのですが、市立博物館と浦和博物館はそれぞれ独立した博物館として運営しています。岩槻郷土資料館と与野郷土資料館は、市立博物館の分館として運営していますのでチラシは本館と分館を合わせたものとして製作しています。この形が相応しいかどうかと言う話ですが、まとまった時に申込先が複数あると、かけ間違えが起りやすくなります。

現に、岩槻郷土資料館と与野郷土資料館の講座の申込が、市立博物館にかかってくることもあります。逆に館毎に分かれているほうが、そういった間違いは少なくなると思います。良し悪しがありますので、バランスを取りながら進めていきます。

議長 今日ではエントランスで市立博物館と浦和博物館を間違えて来館してしまった方がいました。確かに、まとめすぎると混同もあるかと思いました。

議長 他にご意見ある方はいらっしゃいますか。いないようですので、私のほうからお話をさせていただきます。昨年度、鴻沼の展示の際に鴻沼資料館を紹介するコーナーを作るといってお話があったと思いますが、入館者数が増えたという効果はありましたか。

事務局 展示の開催期間中には展示室の一角に鴻沼資料館を紹介するコーナーを設けたり、鴻沼地域の大きな地図の中にウォーキングのルートを示して、現況の写真を入れたものを作成しました。土地改良区から提供を受けた散策マップも配布して、現地に行ってみたい人向けに参考になるような展示を行いました。ただ、統計として見てみると、鴻沼資料館の来館者数が増えたというところには至っていません。

議長 認知度は上げられた、というところでしょうか。

事務局 そうですね、認知はしてもらえたかなというところですね。そうしたものを測る道具も、当時の展示の中では用意できなかったため、漠然とした感触に留まってしまっていますが、そのような状況です。

議長 昨年度の事業に関してご意見ありますか。

松岡委員 人数についてお聞きします。この中には、教育普及事業に入っている小学校の体験学習の受入れも含まれていますか。

事務局 入館者数の中に体験学習の受入れの人数が入っているかということでしたら、含まれています。

松岡委員 巡回展の人数は含まれていないということですか。

事務局 巡回展は小学校に出向いて行っているため、含まれていません。

議長 続いて企画展について事務局からお願いします。

事務局 来年の3月から6月に行う第36回企画展の概要が大方まとまりました。今回のテーマは「地図で見るさいたまの近代」です。これまで江戸時代の絵図をまとめた展示は何回か行ったことがありますが、今回は、近代の地図に焦点を当てて館蔵資料を中心に紹介する展示を考えています。近代の地図は明治維新以降、国が中心となって進めた地形図があります。全国規模から細くなっていく形で整備が進められた地形図と、地租改正に伴って町や村で一筆ごとの形をまとめて、村の中のどこにあるのかを地図に落として次第に細くなっていった地番図の系譜の物があります。大きな方からと、

小さな方からのそれぞれ地図が作られていきましたが、博物館にはその両方の資料がある程度残っています。まず近代の地図がどのように作られてきたかを紹介し、さらに測量の成果が民間にも使われるようになって、例えば商工案内図のような生活に役立つものが作られたり、縮尺からは離れた鳥瞰図や路線図など、人が移動したり、土地を紹介するための地図に類するものも発達しました。それらも紹介します。地図は現況を示すもの他に、これからどのような物が作られるのかを示す都市計画図や耕地整理計画図もあります。今あるものを示す地図の他に、将来を現す地図もあるというコーナーも1つ設けます。ここでは古い物に限らず、戦後から現在の様相についても触れられればと思っています。ここまで1章から3章の構成を考えています。その中で1章では土地の測量の方法についてと、大宮の移り変わりが追えるようなコーナーを構成しようと考えています。大宮公園が開園140周年、盆栽村が開村100周年をそれぞれ迎えるので、地図で歴史を辿るコーナーを設けられればいいなと思っています。最新の地図の見方として、紙ではなくインターネット上で見る方が多いと思いますので、どういう構造で動いているのかということにも広げたいと思っています。子供向けとして、地図記号クイズがあると楽しいかなと思っています。関連事業として講座が何回できるか精査中ですが、本庁部局の出前講座を使って5月の連休に開催することも可能なので、3月だけでなく展示期間の後半にも講座を入れられるように準備したいと思います。その他に学芸員による展示解説6回を予定しています。広報は、SNSでの発信と市報です。毎回展示のアンケートを実施すると、展示や講座を知ったきっかけで1番多いのは自治会掲示板です。市内全ての自治会掲示板にポスターを掲示しているためその効果が1番高いです。次に多いのが市報さいたまです。この2つについては引き続き重視していきたいと考えています。以上です。

議長 開催まで時間があります。委員からご意見をお願いします。

杉山委員 私は県立文書館にいたため、地図センターも持っていました。関連イベントで座学だけでなく、フィールドワークとして地図を持って外に出て、地図を読むという講座も開催してほしいです。

事務局 フィールドワークは職員が務めるのであれば5月などの陽気が良くなってきた頃に開催できるので、検討します。

杉山委員 お願いします。

議長 千葉委員をお願いします。

千葉委員 第3章の未来を表す地図が指す未来は戦後ですか。どこに起点を置いた未来でしょうか。

事務局 地図が作られた時に起点を置いた時の未来です。現在は実現した内容も

あれば、未来として一旦示したけれど実現できなかったものもあります。作った時点で未来を表していた地図にはこういったものがあるよという紹介ができればと思っています。

千葉委員 未来図と現行は対比で紹介されるということですか。  
事務局 実現しなかったものについては、そのような形での紹介を考えています。  
千葉委員 楽しみにしています。コラム等の各時代の地形図で見るというものの、各時代は近代を指していますか。

事務局 近代です。明治から平成、令和の地図があれば、というところです。  
議長 亘理委員お願いします。

亘理委員 先ほど博物館職員名簿を頂きましたが、それぞれ専門が書いていないため、よく分かりません。埼玉県立川の博物館では、学芸員の専門と、見てほしいポイントが来館者へのメッセージとして書いてあります。博物館の中心にいるのは学芸員で、その学芸員が見えるようにしなければいけないと思いますし、質問したいことをすぐにできるような体制ができていないと思います。先日訪れた与野郷土資料館では「担当学芸員のおすすめ 今月の見どころ」というパネルが資料の前に置かれていました。せっかくなので、この企画展を考えた学芸員には「ここが面白い」や「ここが見どころだ」というのが必ずあるはずなので、そこをクローズアップしてほしいです。そういったアピールが大事なので、ぜひやってほしいです。ルーペを置いたりとか、工夫は色々できると思います。また、企画展の規模は、やるのであればもう少し大きくしてほしいです。現在の夏の展示はエントランスにはリーディングエッジ企業との共同展示があり、昔の暮らしや、荒川の話、見沼たんぼの話など、やるのであれば全部クローズアップして大きな規模で開催してほしいし、資料も関連している自治体から借りて展示してほしいです。例えば荒川の話であれば、川の博物館から借りてくるとか、見沼たんぼ関連資料は埼玉県立歴史と民俗の博物館も所蔵しているので市立博物館所蔵資料のみでなく関連施設の資料も考えてください。なぜ学芸員の専門が見えるようにしてほしいかと言うと、地図の展示を開催した時に、地図に詳しい地域の研究家が資料を持ってきてくれたり、さらに貴重な情報をもたらしてくれるかもしれません。とにかく博物館の中心プレイヤーとして学芸員が前面に出ていいかと思いますのでぜひ、面白いなと思ったことを伝えていってほしいなと思います。

議長 松岡委員お願いします。

松岡委員 基本的には大宮を中心とした展示になりますか。

議長 事務局お願いします。

事務局 企画展は輸送費の予算が少ないため、館蔵資料を中心に展示を組み立て

ると大宮が中心にはなりません。ただ浦和博物館も様々な資料を収蔵しているので、なるべくさいたま市全域の話題もふれていきたいと思います。資料の借用についてですが、美術梱包輸送費の高騰で従来のように車を出して資料を借りに行くということが難しくなっています。その中で展示の目玉になるような資料については、今年度の特別展のように史跡足利学校に借りに行くというようになるべく足を運んでいます。夏休み子ども博物館の展示は輸送費の予算がついていないこともあり、館蔵資料で展示を構成しています。また、夏休み子ども博物館のコンセプトは自由研究の参考にしてみよう、というものですので、狭く・深くというよりは、広く・浅く様々なテーマを展示して、興味があれば自ら細かく調べてもらうことを狙っています。大人が見ると少し物足りない部分もありますが、ご理解ください。来年度以降については今後検討していきます。学芸員を前面に打ち出したほうが良いというお話ですが、与野郷土資料館の展示は、オープンする際に用意して好評を頂いています。特別展・企画展については、市の施設としての性格上、準備をした学芸員が展示の時までいられるかが分からない時もあるため個人を打ち出しすぎて、組織として対応できないのは良くないというところもありますが、展示の見どころがあると分かりやすいというのは、その通りですので、なるべく興味を引いてもらえる展示を作っていくように考えていきます。

議長 千葉委員をお願いします。

千葉委員 第2章のわかりやすい地図のところ、地図によって同じ場所の見え方が違う事例があれば、面白いなと思いました。敢えて同じスポットを比較することで視点の違いが分かると思うので、ご検討ください。亘理委員のお話にあった学芸員の顔が見えるというのは難しく考えなくてもよくて、書店でよく見るポップのようなものでも良いのかなと思いましたし、展示の中で学芸員の肉声のようなものが聞ければ、学芸員と来館者が近い関係になれるのかなと思いましたので、無理のない範囲であると良いのかなと思いました。

議長 中学生くらいの子どもたちに興味を持ってもらうにはどうしたらよいか、倉林委員からご意見を伺いたいです。

倉林委員 中学校では教科によって興味を持っている子が分かれています。かなり社会科に興味をもっている子が展示に興味を持つのではないかと思います。やはり教員も博物館に来て調べなくてはならない課題だと感じています。

議長 小学生やそれ以下の年齢の子たちはいかがでしょうか。

小宮委員 乳幼児には少し地図クイズは難しそうですね。

千葉委員 倉林委員に質問があります。中学校の頃に白地図を使った記憶があるの

ですが、今もやっているのでしょうか。等高線を書いたりした記憶もありません。

倉林委員 現在やっているかは定かではないです。

橋本委員 常設展に江戸時代の中山道の地図がありますがよく見るとその道路が現在でも残っています。やはり道路はなくなる物で、その上に新しくつくった道路が重なって、生活するうえで便利になっています。さっきお話があったような「対比」があると良いと私も思いました。また、商工案内図がありますが、当時の商店の商売は現在とは違うので、古い商売の展示があると今の商売との違いが見られると思います。

議長 事務局お願いします。

事務局 学芸員の専門や顔が見えづらいというお話でしたが市立博物館での現状を申し上げますと質問は、窓口とメールと電話と3つで受けています。その場で答えられる質問であれば専門分野関係なく学芸員が答えています。ほとんどの質問は一度引き取って調べてみないと分からない内容です。その場合は学芸員全員で話したり、調べたりして、勉強しながら質問に回答しています。市立博物館には学芸員が複数人いるので、そういったことができますが、それ以外の館だと1人しか学芸員がいませんし、いなければ回答すらできないので聞かれたこと全てを1人で調べて回答しなければならぬ厳しさもあります。以前、浦和博物館にいた頃は夏の土用の丑の日が近付くと、必ず、なぜ浦和は鰻で有名なのかという問い合わせを頂いていました。市民だけでなく、記者からも質問がきて、その都度お答えするのが大変だったため、この際だから調べて展示しようと思って、展示を行ったこともあります。歴史的にどこまで遡れるのか、など調べて、1つの展示にして質問があれば展示を見てくださいという形にしました。そうすれば自分たちにとっても勉強にもなりました。川の博物館のような個々の紹介も良いなと思っていますので検討していきます。

議長 坂野委員から意見はありますか。

坂野委員 他の委員からも意見があった通り、夏休み子ども博物館は大人にとっては少し物足りないなと思いました。例えば荒川の展示であれば、川の博物館を案内するのも良いのかなと思います。そういった工夫があるとさらに子供たちの学習利用が増すのかなと思いました。なかなか他から借りることができない中で、自由研究の題材になるようなさいたま市に関わる様々なテーマの展示は良いと思いました。

亘理委員 リーディングエッジ企業との取り組みでエントランスに展示物がありますが、民間企業との繋がりを深くしてほしいです。エントランスに置いてある装置も体験してみましたが、面白かったし、展開図もなかなか難しいなど

思いながら、市内にある企業を知るきっかけになりました。

神田委員 収蔵品検索システムについて伺います。現状非常に使いにくいシステムだと思います。ホームページ上にリンクが貼ってあって見に行ったのですが、検索できますとなっているのに、全体として何があるのか検索しないと分からない状態になっていて、ピックアップとして挙がってきている資料は見ることはできますが、探せませんでした。キーワードを入れると一覧が出てきますが全体で何件あって資料が収蔵庫にいるのか、展示中なのか、そういった情報もあるとその資料を見に行きたいなと思うきっかけになると思います。こちらは改良できるといいなと思っています。

議長 事務局をお願いします。

事務局 収蔵品検索システムは基本的には内部用の収蔵品の管理システムとして使っています。各館ごとに台帳を作ってしまうと、他の館からは検索ができないので、クラウド上にデータを上げて博物館全体の資料を把握するために構築しています。そこにオプションとして付いている公開機能をパッケージのまま使っているので、使い勝手が悪いのはその通りです。今のシステムを使っている間は改修することはできないので、当面は現行のままとなります。デジタル展示についてはさいたま市としても生涯学習やその他デジタル化の分野で研究も進んでいて、その内の1つが昨年度行った企画展「鴻沼」のデジタル展示でした。展示や資料を見てもらう方法の1つとして、なかなか進められていませんが、検討を行っているところです。今後も見やすいような形を作っていきたいと思っています。

議長 市が中心となって各館にも普及してやっているということでしょうか。

事務局 市はデジタル化を検討してほしいという意向を出しているので、各部署がデジタルを利用して学習効果を高めるためにはどうしたらよいのかという検討を進めているところです。

議長 今後に期待するということですね。

亘理委員 県や国の博物館の資料検索システムを統一化するという動きはないのですか。

事務局 検索システムで言うと文化遺産オンラインのように文化庁がそれぞれのデータベースを横断して検索できるようなシステムを構築はしています。現状使っているシステムも文化遺産オンラインに向けて公開する機能は、データを整備すればできるようになっているので、こちらを使うのも1つの方法かなと思っています。

議長 本日の議事は終了します。